



人同協だより

2016(平成28)年1月29日発行 常磐地区人権・同和教育推進協議会

1. 第67回全国人権・同和教育研究(全同教)長野大会に参加して

四日市市「人権学習支援事業」を活用して、第67回全同教長野大会に参加したので報告します。

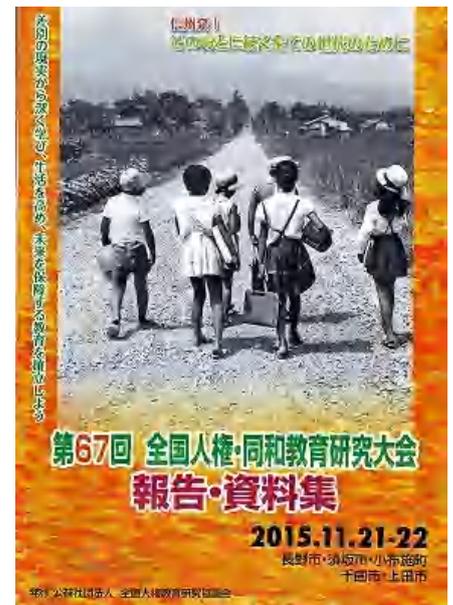
大会は11月21日～22日の両日、長野県長野市を中心にして開催されました。開催場所は毎年1回、地方都市会場持ち回りですが、ちなみに、第61回大会は2009(平成22)年11月に四日市市で行われました。

今回の大会テーマは、昨年と同じ『差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう』ですが、地元大会テーマは、『信州発! そのあとに続くすべての世代のために』でした。

長野市はこの日、曇天で薄ら寒い日でしたがメイン会場及び分科会会場とも参加者で、埋めつくされました。

大会は全体会(会場:長野市ホワイトリング)～基調講演、特別報告～などと、4分科会で構成されています。

第1分科会のテーマは<人権確立をめざす教育の創造>実践報告は57本、第2分科会<自主活動>11本、第3分科会<進路・学力保障>17本、第4分科会<人権確立をめざすまちづくり～地域の教育力・子ども会活動・啓発活動・学習運動・識字運動・文化創造～>34本などで、実践報告は2日間で119本(前は109本)にも及ぶ膨大なものです。今回は第4分科会(会場:JAアクティホール)の「人権確立をめざすまちづくり」から「人権ってなんだろう? 肩の力を抜いて楽しく語り合おう」～鳥取市用瀬(もちがせ)町人権文化学習会の取組みから～と他1本を選んで実践報告分科会に参加しました。



参加者で埋めつくされた「長野市ホワイトリング」会場
～長野市真島総合スポーツアリーナ(通称:ホワイトリング)～

<実践報告から>

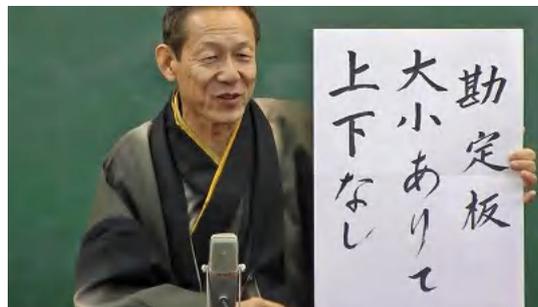
・「人権ってなんだろう?」鳥取市用瀬町人権文化学習会からは、ハンセン病問題の取り組みについての報告でした。

『瀬戸内のハンセン病療養所に入所していた高齢者(82歳)元町民が差別や偏見に正面から向かい闘っておられる姿を見て、何とか帰郷していただくこと、その思い一心で学習を重ね、町民の反対もあったが、これ乗り越え実現させた。更に、ハンセン病取り組みのきっかけとなった人権コンサートの歌詞「時の響きて」から「絵本・時の響きて」を作り、町内(約1,200戸)へ配布した。

また、鳥取市で「ハンセン病問題を正しく知るために」写真・パネル展を関連団体と共催し、その他の取り組みも含めて、ハンセン病問題を広く伝えることができた」と話されました。

2. 常磐地区市民センターで「人権講演会」を開催しました。

～笑って考えよう！身近な人権～ 講師 切磋亭琢磨さん



12月22日(火)常磐地区人同協と常磐地区市民センターの共催により開催しました。年末のウィークデーで、しかも午後7時から開演と言うことで会場が埋まるかどうか心配しましたが、昨年とほぼ同じ約60名の方々に出席していただき盛り上がりました。

講演は2部構成、第1部では落語小噺で笑いの連発を誘い、第2部は講師が小学校教員時代に心臓病を患った教え子との交流を題材とした人権講演でした。

(下記に参加者の多数のアンケートから無作為に原文のまま掲載させていただきました。)

- ・落語と人権とどう結びつくかと思っていましたが、人のことを思う、想像することが大事なんだと思いました。
- ・前半の「人権」を振り回さない今回の落語はよかったと思う。後半は感激して涙、涙でした。
- ・たくさん笑い、人をたくさん笑わせる人間でいたいと感じました。生きることの素晴らしさ、ありがたみを改めて感じました。ありがとうございます。
- ・考え方、理論などではなく、先生の実体験からのお話を聞かせていただき、心に響くものがありました。頭でわかっている事と心がつながった様に思えます。ありがとうございました。
- ・たくさんのお話を頂き、たのしく、最後はホロッとさせられ、たのしい時間を過ごせました。



・落語家 切磋亭琢磨(本名:石崎 豊)さんの紹介

1951年津市生まれ。現在津市に在住、小学校の教員を早期退職し、落語のできる講演会講師として、人権・男女共同参画・児童福祉など幅広いテーマで講演。

また、寄席の高座にも上がり、元教員の見識と落語家の語り口と併せ持つハイブリット講師。軽妙な語り口が評判を呼び、活躍の場は全国に広がっています。

ちなみに、12月29日付の中日新聞北勢版『県内のアマチュア落語家3人が四日市市「ばんこ会館」で年4回の定期公演「一姫二太郎落語会」を立ち上げた』と報道されました。

(可愛家ばいるさん・切磋亭琢磨さん・ねむ亭安楽さんの3人)

← 当日の人権講座の様子を全部DVDに収録しました。

視聴ご希望の方は、常磐地区人同協(まちづくり会議事務局) Tel 352-1852 へお問い合わせください。貸し出しいたします。<収録時間 107分>

3. 人権の拠点シリーズ 「三重県人権センター」をご紹介します。

三重県人権センターの設置目的

三重県は1990(平成2)年3月の県議会において、あらゆる差別をなくしていくため「人権宣言」を決議し、人権の尊重を県行政における最優先の課題とする姿勢を打ち出しました。この宣言の主旨に沿って、人権尊重の思想を広く県民に普及し、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくための拠点施設として「三重県人権センター」を設置しました。



三重県人権センター外観

三重県人権センターの主な業務内容

1. 啓発・研修の実施：同和問題をはじめとする人権に係る問題に対する正しい認識と理解をいただくため、人権講演会、研修会などを開催するとともに、さまざまな啓発活動を実施しています。
2. 人権相談：人権問題で悩みをもつ方に、助言や専門機関の紹介などを行い、相談者の自主的な解決を支援する面接相談、電話相談を行っています。また、弁護士による法律相談(予約制)を実施しています。
3. 差別事象への対応：県内で差別事象が発生した場合、市町や関係機関と連携し、情報の収集、事態の確認、課題の整理を行うとともに、当該市町を中心とした具体的な啓発・研修や体制づくりについて支援し、県としての啓発推進等の取り組みを進めています。
4. 常設展示室の開設：子どもから大人まで、わかりやすく同和問題をはじめとした人権問題の資料などを展示しています。団体見学(予約制)の場合は、専門の職員が説明します。
5. 図書室の運営：人権問題に関する書籍(1万2千冊)、映像教材(千百本)等を所蔵し、貸し出しを行っています。



常設展示室



三重県人権センター ロードマップ

三重県人権センター

- ・所在地：津市一身田大古曾 693-1
- ・開館時間：火曜日～日曜日

8時30分～17時15分

- ・休館日：月曜日 年末年始(12月29日～1月3日)但し、月曜日が休祝日の場合は翌日が休館
- ・交通：近鉄津駅西口より三重交通バス「夢が丘団地行き」乗車、「人権センター口」下車すぐ
- ・059-233-5501 Fax059-233-5511 E-mail jinkenc@pref.mie.jp
- ・ホームページ <http://www.pref.mie.1g.jp/JINKENC/HP/>

4. 2月の事業計画から

教育講座・2月18日（木）開催のご案内

常磐地区小中学校・保育園・幼稚園における人権教育の取り組みを毎年1回、各校園が持ち回りで発表し合っています。

子どもたちが、学校や園で人権をどのように学び、育っているかを知ることができる絶好の機会ですので、ぜひ、参加してください。

- ・開催日時：平成28年2月18日（木）19:00～20:30
- ・開催場所：常磐地区市民センター2階 大会議室
- ・発表者：常磐中央幼稚園教諭
- ・内 容：常磐中央幼稚園での人権教育の取り組みの発表

人権のオアシスひろば（読者の寄稿から）～私のできること～ （伊達 真理子）

人と接する時、心掛けていることがいくつかある。まずは、挨拶をする。次に「ありがとう」「ごめんなさい」は必ず言う。相手の話しに耳を傾ける。“うそ”は言わない。お世辞も言わない。上っ面の言葉は見透かされてしまうから・・・しかし、どんな小さなことでも「素敵だなあ」「すごいなあ」と思う時は、その言葉を口にする。「なんだ当たり前のことでしょう」と思われるかも知れないが、案外難しい。

すべての人に100%通じる訳ではないが、そうすることで信頼関係が自然と生まれてくる。

誰でも自分が第一になってしまう。でも何かする時、言う時、相手の立場に立ち、自分だったらどうだろうと考えれば、“してもらいたい事”“言われたくない事”がわかる気がする。

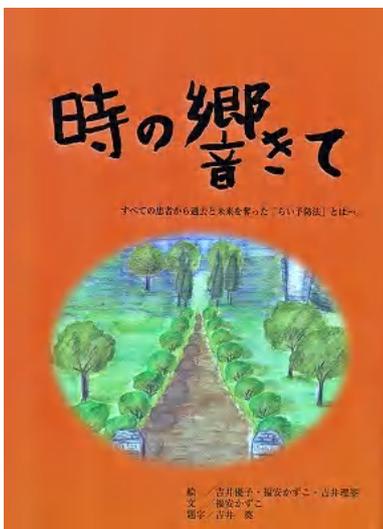
もちろんそうする相手に年齢も何も関係ない。

亡き伯父が「子どもを怒るな、自分が通った道。年寄りを笑うな、いずれ自分も通る道」とよく口にしていた。

これからも心に余裕を持って、出来る限りどんな人に対しても平等に接していきたい。

編集後記 平成27年度「人同協だより」3号をお届けします。

昨年11月に長野市で開催された「第67回全国人権・同和教育研究（全同教）大会」に参加しましたので、その概要を巻頭に掲載しました。この中で<実践報告から>のハンセン病差別を語る「絵本・時の響きて」が報告者で著者の福安かずこさんから紹介されましたが、この絵本（下記表紙）を入手しました。貸し出しできますので、是非ご一読ください。貸し出し希望の方は「まちづくり会議事務局」へ問い合わせ願います。



絵 吉井優子・福安かずこ・吉井理峯
文 福安かずこ 題字 吉井 葵

私たちのまわりには地区、市、県と3つもの人権拠点があります。人権の拠点シリーズ「人権プラザ赤堀」と「四日市市人権センター」は掲載済ですが、今回は「三重県人権センター」について取材をしてきました。（3頁参照）

三重県人権センターの一番の特長は何と言っても三重県の部落史を中心とした常設展示室ではないでしょうか。

身近に3つの人権拠点、人権啓発活動を行う環境は抜群です。大いに活用したいと思います。読者の皆様には三重県庁方面へお出かけの際は、ちょっと足をのばして、「三重県人権センター」へお立ち寄りください。

（書記 川村 浩）